

「人生100年時代」を見据えた人材確保対策 ～延岡市農業労働力確保対策協議会の取組～

延岡市では、近年の農業従事者の高齢化等による労働力不足に対応するため、関係機関を構成員とする協議会を設立。工業都市ならではの特徴を活かし、企業退職者(旭化成OB)の活用や福祉分野が抱える障がい者の働き場、社会参加といった農福連携の推進に取り組んでいる。

ステップ1 協議会設立

【延岡市農業労働力確保対策協議会(平成30年8月設立)】

- ・延岡市 農業畜産課 障害福祉課
- ・東臼杵農林振興局
- ・JA延岡
- ・九州保健福祉大学
- ・延岡市自立支援協議会障がい者就労支援部会
- ・のべおか障害者就業・生活支援センター
- ・(公社)延岡市シルバー人材センター



【協議会の様子】

ステップ2 農業に関する意識調査

【企業退職者へ農業に対する関心調査】

- ・農業に興味がある→200名/479名(42%)
- ・そのうち、34名(17%)が「これから農業経営をしてみたい。」「雇用就農で働きたい(アルバイト含む。)」

【福祉事業所への農業に関する調査】

- ・生産活動として農業(農業生産、農業受託、農産品加工)を行っており、農業に関心がある。→7事業者/12事業者

【農業者への労働力支援実態調査】

- ・人手が不足している→38名/66名(58%)
- ・臨時的な人材の雇用や派遣をあっせん
- ・仲介する制度があれば利用したい→47名/66名(71%)

農業に
関わってみたい



ステップ3 農作業体験会

【みかん収穫体験会】～対象：大学生

(受入農家3名、大学生9名)

◇参加学生の声

- ・次回もあれば参加したい→9名/9名
- ・今回の収穫作業であれば最低賃金でも問題ない→約半数
- ・送迎がないと農作業の手伝いはできない→9名/9名



【たまねぎ収穫体験会】～対象：障がい福祉事業所

(福祉事業所：10名の職員及び利用者)

◇受入農家の声

- ・丁寧な作業をしてくれるので、今後も障がい者の方々に作業をお願いしたい。

◇福祉事業所職員の声

- ・玉ねぎを抜く、葉を切る簡単な作業だが、広いほ場で皆で作業に集中することで、生活リズムや症状の改善効果も有。



【オペレーター体験会】～対象：企業退職者

(企業退職者(旭化成OB) 8名)

◇企業退職者の声

- ・大型機械の操作経験がなかったので、良い体験になった。
- ・この体験をもとに農業に参加したい。



今後の展開

- ◇新たな就農体験農家の発掘
- ◇農業者と就農者のマッチング体制確立
- ◇継続的な労働力の確保に繋げる